

会 告

国際ジオシンセティックス学会日本支部 2009年通常総会 議事録

日 時：平成 21 年 2 月 5 日 16:00～17:00

場 所：地盤工学会内

1. 出席者数の確認

【出席】個人会員：22名＋特別会員：6名（特別会員議決 30票）

【委任状】個人会員：135名＋特別会員：7社（特別会員議決 35票）

過半数で総会は成立した。

2. 議長選出と議長挨拶

三木支部長を議長とする案が提案され、可決された。

『国総研・総プロで“環境負荷の低減”というキーワードのもと、新しいライフサイクルコストでみた環境負荷の低減についての取り組みがなされている、あわせて防災・環境保全・都市再生にもう一度目を向けられる時代である。激動の世の中ではあるがジオシンセティックスの新しい分野の開拓や新しい業種との融合を含め日本支部の取り組みへの協力をお願いしたい。』との挨拶があった。

三木支部長の挨拶に引き続き配付資料を用いて説明が行なわれた。

3. 2008年事業報告と2009年事業計画【資料-1】

1) 支部活動報告

会員数の報告と支部活動全体の報告が桑野副支部長よりあった。

- ① 理事会への出席（カンクン、エジンバラ）
- ② 会員名簿の提出などのIGS本部への対応
- ③ 日本学術会議協力学術研究団体への登録

※登録することにより学会の地位が向上する。シンポジウム論文集などの格が上がる。

審査に3～4ヶ月かかるとのこと。まだ回答を得ていない。

- ④ 刊行物の発行事業（名簿，技術情報，論文集）

2) 各委員会活動報告と活動計画（※報告要旨のみ記述／詳細は議事資料参照）

①編集委員会（木幡委員長）

「用語集」はJIS, ISOの用語との統一を図ることにしたため発行が遅れているが完成に近いところまで仕上がっている。今年度発行できる。

7月号は例年特集号としており、2009年は「数値解析」をテーマにする予定。

②試験法委員会（木幡委員長）

地盤工学会の規準部の活動と連動させて進めたのでIGSでは経費は発生しなかった。

③行事委員会（内村委員長）

シンポジウムは神戸大で開催。澁谷先生等神戸大学の実行委員会の多大な協力を得て開催した。

2009年度は東京で開催の予定とする。

④学生教育委員会（今野委員長）

セミナーと見学会が活動の中心。羽田空港建設現場の現場見学会を企画し実施した。

入門セミナーは、シンポジウムの日程に合わせて神戸大学で開催、55名の参加者。

来年度もセミナー・見学会を中心に企画する。

⑤電子情報化委員会（小島委員長）

HPのメンテ作業が中心。論文著者への著作権の許諾を得て、論文集の電子化とHPへの掲載を進めた。（2007年、2008年度論文集が掲載中）

2009年度の事業として、以前の論文の電子化と掲載を随時おこなう。

⑥表彰委員会（落合委員長欠席／代理：平井幹事長）

IGS日本支部賞の選考が主な業務であり、来年度も継続して行う。

⑦コーポレートメンバー委員会（梶尾委員長）

「技術情報」への会社紹介、IGSロゴマークの使用規定を作成。20年以上継続して特別会員登録した企業がIGS本部から表彰された。（旭ジオテック、鹿島建設、岡三リビックが受賞式に参加した）。2009年度はブラジル会議への参加の呼びかけと参加ツアーや展示ブースについての企画を行う。

⑧災害復旧技術委員会

降雨災害WGと地震災害WGに分かれて活動している。神戸シンポジウムで委員会報告を行った。新潟災害における災害復旧事例調査を長岡で行った。継続して調査と資料の分析を行う。

⑨ジオメンブレン技術委員会（島岡委員長／代理：事務局弘中氏）

耐久性評価ハンドブックを出版する予定であり、最終校正段階にはいつている。

※ 2009年度は委員長／委員が未定。委員を公募し今年度中に立ち上げる予定。

⇒補足：平井幹事長

⑩ジオテキスタイル技術委員会（宮田委員長）

ジオグリッドのLCCの算定手法について開発することを中心として委員会を行ってきた。継続して実施する。

⑪新技術委員会（中村委員長）

委員長を中村氏から明星大学矢島先生に交代する。

ジオシンセティックス技術のデータベース化を行った。形は整えたが応募状況が悪いので、データの登録を継続して呼びかける。各方面の財団等からの助成金をうけて新しい技術の開発に取り組む方向で進めて行きたい。新技術のセミナーも開催することを企画する。

4. 財務委員会報告：伊藤委員長【資料-2】

1) 一般会計

「収入の部」（資料2-2）

- ・会費の請求を前年度（2007年）の12月に行ったため、2008年度の会費収入が前年度と当年度（2008年）の2年に跨った。その結果、2008年度決算の会費収入は少なくなった。このような会費収入のズレをなくすために今年度から会費請求は当年度に実施するよう変更する。（総会後に請求し4月末までに納めていただく）

「支出の部」（資料2-2）

- ・IGS本部への会費支出を除き、委員会経費、出版経費、事務局経費など節約した。

2) 2009年度会計予算（案）（資料2-3）

予算のキリツメや研究費の受託などを積極的に考えることとする。

《質疑応答》

Q1：使用量アンケート調査は実施するか？（岡三リビック 小浪氏）

A1：未定である。使用量調査の重要性は認識している。厳しい世間情勢のなかで調査する行為が適切かどうか？について議論することが必要と感じている。（平井幹事長）

Q2：技術普及委員会について活動計画がなかったが活動計画はあるか？（岡三リビック 小浪氏）

A2：新しい技術の普及を中心に行う委員会として設立した。まだ委員会に実態が無いが委員会設営費を計上した。必要に応じ他の委員会の設営費を補填することを考える。(三木支部長)

300万円の赤字予算であるが、運営費の無駄が無いよう努力することをご了解願いたい。(三木支部長)

5. 会計監査報告：石川会計監事（資料－3）

★監査報告は認められた

★2008年事業報告／2009年事業計画／財務報告・予算計画について、すべて承認された

6. 役員の選出と委員会【資料－4】

新任

- 新技術委員会委員長：矢島氏（新任：明星大学）

★役員の新任と再任は認められた

7. 閉会の挨拶：三木支部長

激動の時代ではあるが、今後も日本支部の発展のためにご協力をお願いしたい。

以上：議事録作成 榎尾

＜2008年度事業報告及び2009年度事業計画＞

1. 現況会員数（2008年12月31日現在）

正会員 240名、特別会員 20社、学生会員 23名
（2007年末の会員数：正会員 265名、特別会員 25社、学生会員 28名）

2. 日本支部の主な活動

1. IGS 理事会への出席（敬称略）

1) 2008年3月2日

カンクーン・Hilton Hotel Cancun

日本の出席者：龍岡会長

2) 2008年9月6、7日

エジンバラ・Heriot-Watt University

日本の出席者：龍岡会長、大谷理事、桑野理事、

2. 会員名簿の提出、本部名簿の国内送付

3. 日本学術会議協力学術研究団体への登録（2008年12月に申請書提出）

3. 刊行物の発行事業

1. 国際ジオシンセティックス学会日本支部会員名簿

2. ジオシンセティックス技術情報（3月、7月、11月号）

3. ジオシンセティックス論文集第23巻

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2008年活動報告

（1）編集委員会の活動概要

1) 第1回編集委員会（日時：平成20年7月3日(木)、場所：三井化学産資 8F 会議室）

- ・ '08 編集体制の確認・検討・決定および委員の退任、交代
- ・ '08.7月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応、次号送り原稿の検討
- ・ '08.7月号の特集の検討：「処分場への適用」
- ・ '08.11月号の目次案の検討
- ・ 平成20年度技術賞、技術奨励賞への推薦候補となる技術報文の選考
- ・ 「ジオシンセティックス用語集」の編集状況と今後の検討

2) 第2回編集委員会（日時：平成20年9月25日(木)、場所：三井化学産資 8F 会議室）

- ・ '08.11月号の進捗状況、編集スケジュールの確認
- ・ 「ジオシンセティックス用語集」の編集状況と今後の検討

3) 第3回編集委員会（日時：平成20年11月20日(木)、場所：三井化学産資 8F 会議室）

- ・ '08.11月号の進捗状況の確認と未入稿原稿への対応、次号送り原稿の検討
- ・ '09.3月号の目次案の検討
- ・ 「ジオシンセティックス用語集」の編集状況と今後の検討

(2) 2008年委員会設営費報告

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	200,000	小計 第1回編集委員会交通費 66,000 第2回編集委員会交通費 67,000 第3回編集委員会交通費 67,000
② 講習会・出版等支出 ・用語集出版費	100,000	0	小計
合 計	300,000	200,000	

用語集については、平成20年度に編集作業を終了し出版する予定であったが、「用語と定義」の説明文や語句の読み合わせ作業に予想外の時間を要したことから、平成21年度に用語集を出版することとしたため、出版費は使用されなかった。

ジオシンセティックス技術情報編集委員会 2009年活動計画

(1) 活動計画

<全体の活動内容>

定期発刊を心掛けるとともに、「技術報文」の投稿については、編集委員による情報収集のほか、シンポジウム掲載論文や他学協会の年次講演会を範疇に入れ、JC-JGS 技術賞候補論文およびJC-JGS 技術奨励賞論文の対象に成り得るような質の高い「技術報文」の掘り起こしを積極的に行う予定である。例年通り、7月号を特集号として位置付け、「ジオシンセティックス分野における数値解析」をテーマとして技術報文を募集する予定である。

また、我が国におけるジオシンセティックス関連の規格・基準の整備の必要性が認識されつつあることから、ISO や ASTM で審議中の規格案に関する「審議情報」を積極的に掲載していく予定である。さらに、これまで同様、「修士、博士論文概要の紹介」などの掲載を引き続き行う。一方、特別企画として予定している「ジオシンセティックス関連の用語集」については、ISO で審議中の「ジオシンセティックスに関連する用語と定義」規格案と整合性を取りながら、編集作業が最終段階に入っており、今年度に刊行する予定である。

<具体的な活動内容>

1. ジオシンセティックス技術情報の発行

ジオシンセティック技術情報は、従来通り年3回の発行とする。

(2009年3月号, 2009年7月号, 2009年11月号)

2. ジオシンセティックス用語集の出版

3. 編集委員会

編集委員会においては、ジオシンセティックス技術情報を滞り無く発行するための定例業務として、目次案の検討や原稿執筆状況の確認などを行うとともに、編集に際しての問題点の解決を行う。また、継続的な審議事項として、編集方針や内容分類の整理、技術情報の目次のHPへの掲載、テーマ特集号の設定、新企画の検討など、読者のニーズに合うように check and review を積極的に行う。なお、5月の編集委員会では、平成20年度技術賞、技術奨励賞の受賞候補となる技術報文の推薦選考を行う予定である。

開催予定：5回程度（2月，5月，7月，9月，11月を予定）

4. 編集WG

編集WGにおいては、幹事会および編集委員会で決定した編集方針に基づくジオシンセティックス技術情報の実質的な編集作業として、原稿の内容確認などを行う。なお、今年度の編集WG分担は以下に示す通りである。また、編集WGは、基本的にはメールで作業を行う。

09年3月号：主査 谷口委員，副査：原田委員，平川委員

7月号：主査 土橋委員，副査：小浪委員，山崎委員

11月号：主査 内村委員，副査：高橋委員，榎尾委員

(2) 2009年設営費計画

平成 21 年度は、例年通りの交通費と昨年度作業を行った特別企画の用語集出版費を加えた以下の予算案としたい。ただし、これまで用語集出版費として、20 万円を計上していたが、用語集の内容を精査した結果、10 万円以内で印刷可能と判断し、用語集出版費を 10 万円の予算とした。

内 訳	20 年度予算案 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000 200,000	委員会交通費 (73,000×2 回+18,000×3 回)
② 講習会・出版等支出 ・用語集出版費	100,000	② 講習会・出版等支出 ・用語集出版費
合 計	300,000	

ジオシンセティックス試験法委員会 2008 年活動報告

(1) 試験法委員会の活動概要

地盤工学会基準部に平成 18 年度に新設された室内試験規格・基準検討委員会内のジオシンセティックス WG と連携して作業を進めている。

1) 第 1 回試験法委員会 (日時：平成 20 年 4 月 16 日，場所：地盤工学会 会議室)

- ・ジオシンセティックス試験法の改訂案の検討と今後の作業状況の確認・検討
 - ・ジオテキスタイルの開孔径試験方法
 - ・土とジオシンセティックスの一面せん断試験
 - ・ジオシンセティックスの土中引抜き試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の垂直方向透水性能試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の面内方向通水性能試験
- ・解説執筆の分担と執筆内容の検討，今後のスケジュールの確認

2) 第 2 回試験法委員会 WG (日時：平成 20 年 10 月 30 日，場所：地盤工学会 会議室)

- ・ジオシンセティックス試験法基準の解説の内容検討と今後の作業状況の確認・検討
 - ・ジオテキスタイルの開孔径試験方法 湿式開孔径試験
 - ・土とジオシンセティックスの一面せん断試験
 - ・ジオシンセティックスの土中引抜き試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の垂直方向透水性能試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の面内方向通水性能試験

3) 活動成果

- ・下記のジオシンセティックス試験法の改訂案の作成と解説執筆
 - ・ジオテキスタイルの開孔径試験方法
 - ・土とジオシンセティックスの一面せん断試験
 - ・ジオシンセティックスの土中引抜き試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の垂直方向透水性能試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の面内方向通水性能試験

(2) 2008 年委員会設営費報告

2008 年度は、経費節減のため、メール審議を中心に活動したことと、地盤工学会／室内土質試験規格・基準委員会／WG6(ジオシンセティックス)と連動して委員会を開催したため、委員会設営費を使用せずに活動した。

内 訳	予算 (円)	実績 (円)	備 考
① 委員会経費 ・編集委員会	200,000	0	小計
合 計	200,000	0	残 200,000 円

ジオシンセティックス試験法委員会 2009 年活動計画

(1) 活動計画

2008 年度の活動を踏まえ、2009 年度は以下の項目について検討する予定であり、年 1 回程度の委員会を開催する計画である。

- 1) 地盤工学会で審議中のジオシンセティックス基準案 5 件について、土研センター、国内メーカー及び関連協会等と意見交換するとともに、地盤工学会 室内試験規格・基準委員会WG 6 (ジオシンセティックス) と連携しながら、基準の解説の校正作業を支援する。
 - ・ジオテキスタイルの開孔径試験方法
 - ・土とジオシンセティックスの一面せん断試験
 - ・ジオシンセティックスの土中引抜き試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の垂直方向透水性能試験
 - ・ジオテキスタイル及びその関連製品の面内方向通水性能試験
- 2) 標準化されていないジオシンセティックス試験方法や ISO 会議に関する国内の要望を収集するために、IGS 日本支部会員にアンケート調査を実施するとともに国内の意見調整を行う予定である。

(2) 2009 年設営費計画

2009 年は、1 回の委員会開催およびアンケートの実施等に関する WG 会議を 2 回開催する予定であることから、以下の予算案としたい。

内 訳	2009 年度予算案(円)	備 考
① 委員会経費		
・試験法委員会	200,000	委員会交通費
	130,000	熊本あるいは苫小牧-東京 (1 回)
・WG 会議	70,000	WG 会議交通費 (2 回)
合 計	200,000	

行事委員会 2008 年活動報告

(1) 2008 年活動報告

第 23 回ジオシンセティックスシンポジウムを、12 月 4～5 日に、神戸大学で開催した。

電子情報化委員会と協力し、ジオシンセティックス論文集に掲載された論文等を、WEB で閲覧できるようにした。これに伴い、投稿規定を改定し、論文集に掲載された著作物の著作権は著者に属し、IGS 日本支部に対して、あらゆる利用行為を許諾することとした。ただし、当該著作者が自らこれを利用することは妨げない。

- 4月10日 地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼 (事務局経由)
- 地盤工学会誌へのシンポジウム論文募集案内 (地盤工学会誌 6 月号) (事務局経由)
- ホームページへの論文募集案内
- 4月18日 シンポジウム会場 (神戸大学) 下見と打ち合わせ
- 5月10日 IGS 日本支部賞 論文賞・論文奨励賞 推薦書提出
- 6月10日 地盤工学会関西支部・繊維学会 協賛と広報の依頼

- 7月 1日 IGS 日本支部メーリングリストへの論文募集案内
- 7月14日 シンポジウム論文概要 締切
- 8月 6日 シンポジウム論文概要 採択結果通知
- 8月18日 シンポジウム本論文 締切
- 8月下旬 シンポジウム プログラム作成
座長・副座長・論文審査の依頼
- 9月 1日 ジオシンセティックス論文集 投稿規定改定（著作権対応）
- 9月 末日 シンポジウム 査読締切
- 10月 2日 第1回行事委員会
- 10月31日 シンポジウム最終論文 締切、印刷所入稿
- 12月3日 シンポジウム プレイベント（フットサル大会、44名）
- 12月4日・5日 第23回ジオシンセティックスシンポジウム（神戸大学百年記念館）
参加者 129名、一般発表（40編）、特別講演（神戸大学 澁谷啓教授）、
JC-IGS 論文賞・奨励賞・技術賞・技術奨励賞表彰式、懇親会 70名

行事委員会メンバーのほか、神戸大学に設置された実行委員会の協力を得た。

第23回IGS日本支部シンポジウム実行委員会

- 委員長 澁谷啓 神戸大学大学院工学研究科
- 副委員長 河端俊典 神戸大学大学院農学研究科
- 委員 加藤正司 神戸大学大学院工学研究科
- 委員 齋藤雅彦 神戸大学自然科学系先端融合研究環 都市安全研究センター
- 委員 鳥居宣之 神戸大学大学院工学研究科

(2) 2008年委員会設営費報告（第23回シンポジウム 収入は、請求中のものを含む見込額）

2008年度収支実績

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費	100,000	84,022	
交通費	(80,000)	(12,022)	論文集輸送費
通信費・消耗品費等	(20,000)	(72,000)	横断幕、学生謝金、特別講演謝礼

(3) シンポジウム収支報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
第23回シンポジウム	-	-235,003	
収入	900,000 (700,000) (200,000)	550,000 393,000 111,000	シンポジウム参加費 懇親会参加費
	-	22,000	プレイベント（フットサル）参加費
	-	8,000	論文集購入（現金2名）
	-	16,000	請求書払い（3名）
支出	900,000 (150,000) (400,000) (50,000) (50,000) (150,000) (100,000)	785,003 176,000 414,099 0 3,280 146,600 45,024	会場費・設営費 論文集印刷費 210部 特別講演謝礼・交通費 通信費・事務局旅費ほか 懇親会費 プレイベント（フットサル）経費

シンポジウム・懇親会参加の内訳

	シンポ参加人数	収入額		懇親会参加人数	収入額
正会員	62	248,000	社会人	37	111,000
非会員	11	66,000			
招待	13	0	学生	4	0
優待	12	48,000	招待	29	0
学生	31	31,000			
小計	129	393,000	小計	70	111,000
参加収入総計					504,000
			論文集購入	2	8,000
			請求書払い	3	16,000
			フットサル参加費収入	44	22,000
			計		550,000

行事委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年活動予定

第24回ジオシンセティックスシンポは、12月上旬、東京で開催する。

- 1月 シンポジウム論文募集会告（技術情報）原稿提出
- 2月 地盤工学会へのジオシンセティックスシンポジウム共催依頼
- 4月上旬 シンポジウム論文募集会告（土と基礎6月号会告）原稿提出
- 4月上旬 繊維学会へのジオシンセティックスシンポジウム協賛依頼
- 5月 論文賞、論文奨励賞 推薦
- 6～7月 Web、メール、地盤工学研究発表会などにおける広報、各研究機関への論文投稿依頼、
- 7月末 シンポジウム投稿論文題目と概要の申込み締切
- 8月上旬 第1回行事委員会：

シンポジウム関連事項打合わせ（論文応募状況の確認、概要審査、プログラム概要決定・会告原稿作成、論文審査員候補者選定、査読要領・シンポジウム実施要領の検討、懇親会計画）

- 9月上旬 本論文提出締切、査読依頼
- シンポジウム開催案内（土と基礎11月号会告）原稿提出

- 9月上旬 ジオシンセティックスシンポジウム査読依頼
 9～11月 Web、メール、土木学会全国大会などにおける開催案内
 10月下旬 査読結果報告締切
 10月下旬 第2回行事委員会：

シンポジウム関連事項打合わせ（招待者、プログラム詳細、論文査読結果取りまとめ、役割分担、論文集編集、論文賞・奨励賞推薦関係）、査読結果通知

- 11月上旬 招待状発送（支部顧問、特別会員）
 11月中旬 修正済み原稿取りまとめ、論文集作成
 12月上旬 第24回ジオシンセティックスシンポジウム（予定会場：東京・地盤工学会）

(2) 2009年設営費・シンポジウム収支計画

例年の収支実績を踏まえ、以下のような予算とした。

2009年度の予算（案）

内 訳	予 算	備 考
行事委員会設営費	50,000	
(内訳)	(20,000) (30,000)	委員会交通費・事務局旅費ほか 通信費・消耗品費等
第24回シンポジウム	0	(東京)
(収入)	520,000 (400,000) (100,000) (20,000)	シンポジウム参加費 懇親会参加費 イベント参加費
(支出)	520,000 (0) (350,000) (10,000) (30,000) (100,000) (30,000)	会場費・設営費 論文集印刷費 210部 特別講演謝礼・交通費 通信費・事務局旅費ほか 懇親会費 イベント経費

2009年度 行事委員会名簿：

編集委員長	内村太郎（東京大学）	編集委員	西形達明（関西大学）
顧問	落合英俊（九州大学）	編集委員	中村 努（苫小牧高等工業専門学校）
顧問	嘉門雅史（高松工業高等専門学校）	編集委員	間 昭徳（三菱樹脂(株)）
編集委員	金子賢治（八戸工業大学）	編集委員	峯岸邦夫（日本大学）
編集委員	河端俊典（神戸大学）	編集委員	宮田喜壽（防衛大学校）
編集委員	熊谷浩二（八戸工業大学）	編集委員	安福規之（九州大学）
編集委員	小島謙一（(財)鉄道総合技術研究所）	編集委員	吉田浩一（前田工織(株)）
編集委員	小竹 望（東洋建設(株)）		

学生・教育委員会 2008年活動報告

(1) 2008年活動報告内容

1) 委員会開催内容

第1回学生・教育委員会

開催日：2008年4月18日

会 場：地盤工学会会議室

内 容：委員会運営方法について

見学会・入門セミナーの開催について

第2回学生・教育委員会

開催日：2008年5月30日
会 場：地盤工学会会議室
内 容：見学会実施に関する検討
入門セミナーの開催について（講師の人選）

第3回学生・教育委員会

開催日：2008年6月27日
会 場：地盤工学会会議室
内 容：見学会の日程に関する検討
入門セミナーの開催について（プログラムの確認）

第4回学生・教育委員会

開催日：2008年9月19日
会 場：羽田空港見学会会場
内 容：見学会の反省会

第5回学生・教育委員会

開催日：2008年12月3日
会 場：入門セミナー開催会場（神戸大学）
内 容：入門セミナーの反省会

2) 行事開催

見学会

見学場所：羽田空港新滑走路および国際線ターミナル工事現場
見学日時：2008年9月19日（金）
参加人数：20名

入門セミナー

開催場所：神戸大学農学部大講堂
開催日時：2008年12月3日（水）
参加人数：55名
内 容：ジオシンセティックス概論（嘉門雅史・高松高専）
ジオシンセティックスの材料特性および試験法（西形達明・関西大学）
廃棄物処分場と遮水工（加納光・ネオルーフィング（株））

(2) 2008年委員会設営費報告

内 訳	予 算	実 績	備 考
委員会設営費			
会議費	36,000	29,000	委員交通費
見学会経費	24,000	26,250	バス代等
入門セミナー経費	40,000	48,850	アルバイト代(15,000) 旅費(33,850)
合計	100,000	104,100	

学生・教育委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年活動予定内容

1) 委員会開催

入門セミナー・見学会等の企画および技術資料の提供等に関して年 4 回程度の委員会を開催予定。

2) 行事開催

第 11 回ジオシンセティックス入門セミナー

現場見学会

(2) 2009 年設営費計画

内 訳	予 算
委員会設営費	
会議費	36,000
見学会経費	24,000
入門セミナー経費	40,000
合計	100,000

電子情報化委員会 2008 年活動報告

(1) 2008 年活動報告内容

<主な活動内容>

- ・HP の更新、改良（ニュース、データベースなど）
- ・論文集の電子化および公開
- ・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などについては HP 担当を中心として、更新等を実施した。また、HP 掲載に関する手続きを整理した。

2. 論文集の電子化および公開

電子化：論文の電子化については本年度で終了した。

公開：J-Stage においてジオシンセティックス論文集の公開を開始した。公開にあたり、公開方法を取りまとめ、最新号は発刊から 1 年間は会員のための公開とし、パスワードでの管理を行なう。発刊から 1 年以降経過したものについては完全フリーとし、認知度を高めることとした。また、著作権の関係から、HP、技術情報誌で電子化の許諾を行った（先行公開を行った 2007 年分に限り、著者の許諾を個々にとった）。

3. その他

HP の内容の充実を図るべく、掲載内容について検討を進めた。特に、IGS 日本支部の活動内容について充実を図るよう検討を進めている。

(2) 2008 年委員会設営費報告

予算：100,000 円

支出：54,355 円（HP メンテナンス作業等）

残金：45,645 円（返金）

（別途、事務局から、論文集の J-Stage 公開に関する編集作業費用として 62,000 円を使用）

電子情報化委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年活動予定内容

<主な活動内容>

- ・HP の更新、改良 (ニュース、データベースなど)
- ・論文集の公開
- ・その他

1. HP の更新、改良について

定期的なニュースや、学会からの情報などをできるだけ早く掲載を行っていく。

2. 論文集の公開

公開 (最新版の公開および過去の論文集) 作業を行っていく。

3. その他

各委員会などの連携を深め、IGS 日本支部の活動内容を紹介していく。特に新技術委員会の成果を調整をとりながら、会員に有用な情報の紹介を行っていく。

(2) 2009 年設営費計画

予算：200,000 円 (HP のメンテナンス、論文集公開作業 (J-Stage への登録)、会議費、交通費)

表彰委員会 2008 年活動報告

(1) 2008 年表彰委員会活動報告

・IGS 日本支部賞の選考

2008 年度 IGS 日本支部賞は下記の各賞について表彰規程により、表彰委員会にて、選考した。12月4日のシンポジウム開催時に表彰を行った。以下に表彰者を示す。

1. JC-IGS 論文賞 (ジオシンセティックスに関する学術および技術の進展に顕著な貢献をした論文の著者)

宮田喜壽, Richard J. Bathurst

粘着力を有する盛土材を用いたジオグリッド補強土壁における補強材力の推定モデル

2. JC-IGS 論文奨励賞 (ジオシンセティックスに関する研究を行い、将来、学術および技術の進展に貢献が期待される論文の著者)

石森洋行

高温条件下におけるジオシンセティッククレイライナーの遮水性

3. JC-IGS 技術賞 (ジオシンセティックスに関する技術の進展に顕著な貢献をした、個人・グループ)

梶川洋史, 村山眞, 佐々木史朗

既設アースダム耐震強化における補強土の導入～村山下貯水池堤体強化工事～

4. JC-IGS 技術奨励賞 (ジオシンセティックスに関する技術的研究を行い、将来、その実用化等に発展が期待される個人・グループ)

平川大貴, 龍岡文夫, 野尻峰広, 相澤宏幸, 錦織大樹

一体GRS橋梁の構造的利点と諸課題

(2) 2008 年表彰委員会設営費報告

収入 ¥150,000 (2008 年度委員会予算)

支出 ¥67,240 (賞状、盾代 他備品代)

合計 +¥82,760

表彰委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年活動予定内容

- ・ 2009 年度 I G S 日本支部賞の選考、報告など
- ・ IGS 賞本部賞選考などのお手伝い

(2) 2009 年設営費計画

収入 ¥150,000 (2008 年度委員会予算)

支出 ¥150,000 (賞状, 盾代, 他備品, その他経費, ¥150,000)

合計 ±¥0

コーポレートメンバー委員会 2008 年活動報告

(1) 2008 年活動報告内容

【電子メールによる委員会形式】

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載した。
- 事務局と協調し IGS 選挙の選挙投票の呼びかけ, 全コーポレートメンバーが投票できるように電子投票選挙のシステムについて知らせた。
- I G S 本部と連絡し, 特別会員名簿のメンテナンスをおこなった
- I G S ロゴの使用規定を作成し, 特別会員のパンフレット等へ I G S ロゴを使用できるようにした。
- コーポレートメンバー登録 20 年以上の企業を対象とした IGS Corporate Recognition への参加を促した。表彰式は GeoAmericas2008 (メキシコ: Cancun), GeosyntheticsAsia2008 (中国: 上海), EuroGeo4 (英国: Edinburgh) の各地域会議にて実施された。
- 各委員会からの連絡事項への協力
 - ・ 試験法委員会: 地盤工学会赤本改訂作業について/ISO 国内専門委員会の内容ほか
 - ・ 電子情報化委員会: ジオシンセティックス論文集のWEB掲載についてのお知らせ
 - ・ 新技術委員会: 企業製品紹介データベース化のお願い



国際ジオシンセティックス学会

特別会員

(2) 2008 年委員会設営費報告

委員会設営費 : 収入 50,000 円
支出 0 円
残金 50,000 円

コーポレートメンバー委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年活動予定内容

- 『ジオシンセティックス技術情報』コーポレートメンバーのページを各社で掲載する。
- 2010 年開催予定の 9th ICG: ブラジル会議への参加/協力の呼びかけ
- 各委員会からの連絡事項への協力
- その他/会社単位での入会勧誘活動を行う。

(2) 2009 年設営費計画

委員会設営費 : 収入 50,000 円

※) 会議費等で使用予定

災害復旧技術委員会 2008 年活動報告

(1) 2008 年災害復旧技術委員会活動報告内容

委員長：桑野二郎、2008 年 12 月時点総員 22 名

1) 降雨 WG (安福規之主査)、地震 WG (若井明彦主査) に分かれて活動 (なるべく同日開催)

1-1) 降雨 WG

2008 年 2 月 19 日：副査指名 (吉田眞輝)、WG の活動方針

2008 年 5 月 14 日：アンケート内容の検討、話題提供 (中村、澤松、安福)

2008 年 7 月 16 日：アンケート結果の一次報告、話題提供 (桑野)

1-1) 地震 WG

2008 年 2 月 19 日：副査指名 (吉田浩一)、活動方針、話題提供 (桑野、弘中、古市、市橋、近藤、若井)

2008 年 5 月 14 日：アンケート内容の検討、話題提供 (中村、桑野)

2008 年 7 月 16 日：アンケート結果の一次報告、話題提供 (市橋)

2) 2008 年 6 月下旬：アンケート調査開始

3) 2008 年 12 月 5 日：委員会活動報告

(委員会設立の経緯・趣旨、活動概要、検討課題、アンケート結果概要報告など)

4) 2008 年 12 月 10 日：災害復旧資料調査 (長岡)

(2) 2008 年災害復旧技術委員会設営費報告

収入 ¥200,000 (2007 年度委員会予算)

支出 ¥94,300 (交通費、資料送料)

合計 +¥105,700

災害復旧技術委員会 2009 年活動計画

(1) 2009 年災害復旧技術委員会活動予定内容

地震 WG と降雨 WG それぞれ数回会合を開く。(WG は相互に参加可能であり、また情報をなるべく共有する)

アンケート調査結果の分析と二次調査の実施。災害復旧資料の分析。

被災度判定技術、復旧手法に関する情報交換を行うとともに、マニュアル化へ向けた検討を行う。

適宜、全体会議を開く。

(2) 2009 年災害復旧技術委員会設営費計画

収入 ¥200,000 (2008 年度委員会予算)

支出 ¥200,000 (委員会費、調査費、その他経費)

合計 ¥0

ジオメンブレン技術委員会 (第Ⅳステージ) 2008 年活動報告

(1) ジオメンブレン技術委員会 2008 年活動報告

ジオメンブレン技術委員会第Ⅳステージ (2004 年 1 月～2008 年 12 月) では、ジオメンブレン (あるいは他のジオシンセティックス) を用いた廃棄物最終処分場の埋立地や各種の貯水施設などの遮水工・遮水構造の長期性能についての評価手法の提案のため、現場での調査計測や既存実験データの取りまとめを行った。

なお、これらの成果は耐久性評価ハンドブック (仮称) としてとりまとめ、現在出版に向けた最終調整を行っている。

2008 年は、1 回の全体委員会、3 回の編集委員会を実施した。各委員会の議事は下記の通りであり、主に耐久性評価ハンドブック (仮称) の作成について議論を行った。

第 2 回ハンドブック編集委員会 平成 20 年 1 月 8 日 (火)、10:00-19:00、三井化学産資株式会社

平成 20 年 1 月 9 日 (水)、9:00-17:00、三井化学産資株式会社

1) 耐久性評価ハンドブック (仮称) の原稿査読・修正

2) 出版方法について

第3回ハンドブック編集委員会 平成20年3月18日(火)、10:00-17:00、三井化学産資株式会社

- 1) 耐久性評価ハンドブック(仮称)の原稿査読・修正

第17回全体委員会 平成19年8月28日(火)、14:00-17:00、三井化学産資株式会社

- 1) 2007年活動報告2008年活動計画について
- 2) 耐久性評価ハンドブック(仮称)の進捗状況について
- 3) 次期ステージのテーマ探索

(2) 2008年委員会設営費報告

2008年委員会設営費報告(自2008年1月1日～至2008年12月31日)

科目	予算	決算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥200,000-	第2回編集委員会 ¥140,000-(2名旅費) 第17回委員会 ¥60,000-(1名旅費)
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥0-	
合計	¥200,000-	¥200,000-	

ジオメンブレン技術委員会(第Vステージ)2009年活動計画

(1) 2009年活動計画

ジオメンブレン技術委員会第Vステージでは、今後の廃棄物最終処分場におけるジオメンブレン(あるいは他のジオシンセティックス)の普及と活用をめざしたテーマ探索を行う。現在の候補は以下の通り。

- 1) 廃棄物最終処分場でのジオシンセティックス(不織布、GCL)の適用とその効果
- 2) 海外動向の調査
- 3) 新しい技術情報(地盤環境、モニタリングと管理方法、キャッピングなど)
- 4) 遮水機能の多重安全(遮水構造、モニタリング、情報収集および公開など)

委員会組織

委員長：未定

委員：未定

(2) 2009年設営費計画

2009年度委員会予算(自2009年1月1日～至2009年12月31日)

科目	予算	備考
1. 委員交通費	¥40,000-	委員交通費(1回)
2. 通信・消耗品費	¥10,000-	郵便, 通信, 資料コピー, 封筒等
合計	¥50,000-	

ジオテキスタイル技術委員会（第Ⅳステージ）2008年活動報告

（1）ジオテキスタイル技術委員会 2008年活動報告

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅳステージ（2007年1月～2009年12月）では、ジオグリッド補強土壁のLCC（ライフサイクルコスト）の算定法を開発することを目的とし、下記の3つの課題に対してWG活動と、それぞれのWGで得られた成果をまとめる全体活動の2本柱で活動している。

WG1：コストWG／建設時、破壊が生じた後の復旧時のコスト算定法について検討する。

WG2：信頼性WG／地震や降雨による破壊確率の計算法を検討する。

WG3：材料WG／ジオグリッド（材料特性）の経年変化の評価法やモデル化について検討する。

2008年は、2回の全体委員会と計6回のWGを実施した。その議事は下記の通りである。

○ 第2回全体委員会：平成20年1月17日（木）、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

3) 2007年活動報告・2008年活動計画について

4) LCA関連の動き

5) 活動計画

○ 第1回WG1：平成20年2月29日（木）、15:00-17:00、三井化学産資会議室

1) WG1活動計画について

2) 土構造物の被災事例、対策事例の分析

3) コスト算出方法

○ 第2回WG2：平成20年4月4日（金）、12:00-16:00、鉄道総合技術研究所会議室

1) WG2活動計画について

2) 解析モデルについて

3) 話題提供（信頼性解析について）

○ 第3回WG2：平成20年7月9日（水）、18:00-20:00、中国新聞社会議室

1) 標準断面の検証について

2) 検討ケースについて

3) WG1との整合性について

○ 第2回WG1：平成20年8月21日（木）、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

1) 標準断面における補強土壁、無補強盛土、L型擁壁の工事費について

2) 能登半島地震の無補強盛土の被災事例分析について

3) 震度法設計における設計水平震度の根拠について

○ 第3回全体委員会：平成20年9月19日（金）、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

1) 各WGの進捗状況について

2) 全体スケジュールについて

3) 話題提供（能登半島地震の復旧対策事例）

○ 第3回WG1, 第1回WG3：平成20年10月16日（木）、14:00-17:00、地盤工学会中会議室

1) 無補強・補強盛土の被災および復旧工事費の調査状況について

2) 復旧工事費算出方法と被災程度について

3) 話題提供（材料安全率について）

(2) 2008年委員会設営費報告

2008年委員会設営費報告(自2008年1月1日～至2008年12月31日)

科目	予算	決算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	¥183,000-	委員会交通費(4/4, 9/19, 10/16)
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	¥16,167-	会議費(お茶代他)
合計	¥200,000-	¥199,167-	

ジオテキスタイル技術委員会(第Ⅳステージ)2009年活動計画

(1) 2009年活動計画

ジオテキスタイル技術委員会第Ⅳステージでは、ジオグリッド補強土壁のLCCの算定法開発を目標に全体委員会を年2回、WGを年5回開催する予定である。

なお、最終年であるために本委員会で作られた成果を報告書としてとりまとめる。

委員会組織

委員長： 宮田 喜壽(防衛大学校 建設環境工学科)

委員： 13名(2009.1.9現在)

(2) 2009年設営費計画

2009年度委員会予算(自2009年1月1日～至2009年12月31日)

科目	予算	備考
1. 委員交通費	¥180,000-	全体委員会：¥40,000(1回)×2回=¥80,000- WG：¥20,000(1回)×5回=¥100,000-
2. 通信・消耗品費	¥20,000-	郵便, 通信, 資料コピー, 封筒等
合計	¥200,000-	

新技術委員会 2008 活動報告

1. 新技術委員会 2008年活動報告

1-1 平成20年度実施項目。

平成20年度は6回の委員会(2/20. 5/15. 7/25. 9/12. 10/10. 12/11)を開催した。

- ① ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成。
- ② 環境、維持補修、防災など新技術情報の調査。
- ③ 新技術関連の講演会の開催

1-2 データベースに関して

- ① コンセプト；設計者が見やすくわかりやすい。
 - ② 募集；JCIGSのHPで全会員に公開する。
 - ③ 技術範囲；試験施工 新工法も加える。
 - ④ メンテナンス；新技術委員会で年1回行う。
 - ⑤ 来年度継続する。シンポジウムでも募集とPRを行う。
- 募集〆切1月末、データ提出〆切2月末

参考：NETIS（新技術活用促進システム）に関するアンケート 国土交通省 18年9月
地方公共団体の技術担当者を対象

新技術を積極的に活用している。3%

新技術情報入手方法 NETIS 19% 技術開発者 32% 施工業者の推薦 29%

新技術導入検討時期 計画設計段階 84%

積算段階 11%

新技術活用の課題 実績不足 23%

信頼性 19%

技術の評価：これがないと研究や開発に向かわない。

規制緩和：規制の縮小、撤廃、だけでなく全体的な制度改革は規制改革

規制の進歩はややもするとブレーキになる。

新技術開発：根気よく、情熱を持って

1-3 環境、維持補修、防災など新技術情報の調査

①助成金によるジオシンセティックス研究に関する調査

文部科学省、NEDO、環境省、国交省等の助成金による研究の調査報告、道路関係、港湾空港関係、環境省関係、河川関係、前田記念工学振興財団、農工研関係

河川整備基金助成事業と前田記念工学振興財団

前田記念工学振興財団への助成金申請は来年度申請の予定

②ジオシンセティックス工法のCO2削減への貢献について調査ジオシンセティックスのLCA調査事例を調べる、大手建設会社、中部電力等の公共関係の事例

1-4 新技術関連の講演会の開催 3回

①5月15日「ジオシンセティックスに関する最近の技術開発」について

鉄道総合技術研究所 基礎土構造研究室 副主任研究員 渡辺 健治氏

セメント改良補強土橋台の開発、ジオグリッドとセメント改良礫土を用いた軟弱地盤対策工、現在取り組んでいる技術開発についての講演

②10月10日「STOP THE 温暖化 2008」

NPO気候ネットワーク運営委員 桃井 様

地球温暖化防止の法制化キャンペーン「MAKE the RUKU」についての話題を中心とした温暖化防止に関して

③ 12月11日 「品格法に係わる関東地方整備局の実施方針」

関東地方整備局企画部記企画課課長代理浅古勝久氏

2.2008年新技術委員会設営費報告

確定金額						
	交通費	会議費	講演会費	人件費	ソフト代	計
予算	30,000	30,000	30,000	160,000	50,000	300,000
実施	19,750	22,722	20,000	0	0	62,472

残額；237,528円

予算；人件費（データ入力、システム構築等に伴う作業）；8,000×10日×2名=160,000円

ソフト代（ホームページ作成）；50,000円

新技術委員会 2009 年活動計画

1.2009 年活動予定内容

2009 年は基本的に 2008 年の活動を継続する。

- ①ジオシンセティックスの新技術に関するデータベースの作成。
- ②新技術情報の調査。
- ③新技術関連の講演会の開催

詳細計画は新年度に煮詰める。

2.2009 年設営費計画

新技術委員会21年度予算案						
	交通費	会議費	講演会費	人件費	ソフト代	計
予算	30,000	30,000	30,000	160,000	50,000	300,000

人件費（データ入力、システム構築等に伴う作業）；8,000 円×10 日×2 名=160,000 円

ソフト代（ホームページ作成）；50,000 円

以上

財務委員会 報告

平成 21 年 2 月 5 日 財務委員会

(1) 財務委員会メンバー

委員長： 伊藤 雅夫（前田工織(株)）
副委員長： 松尾 信次（(株)クラレ）
委員： 伊集院 紀子（日本支部事務局）

(2) 2008 年度会計報告（別紙）

収入は、予定した受託業務がなかったことと会員数減少および 2008 年度の会費収入分を一部 2007 年度に入れたこともあって、予算より約 700 万円ほどの減少になった。また、支出は委員会経費の節約その他により、予算より 500 万円ほど少なくなった。

収支実績からは約 470 万円の赤字になったが、繰入金があるために 2009 年度への繰越金は 21,495,648 円となった。

(3) 2009 年度会計予算（別紙）

全体予算は繰入金をいれて 29,615,648 円である

繰入金を除いた収入は、受託研究収入をなくしたためと会員数減少の影響で、昨年より少ない 8,120,000 円とした。支出は、委員会経費の減額を実施して昨年より少ない 11,190,000 円とした。

(4) その他

2008 年度の実績を見ると、繰越金を除いた収入は約 460 万円で支出は約 930 万円となり約 470 万円ほどのマイナスになった。

2009 年度の予算も、繰越金を除けば 300 万円ほどのマイナス予算である。

現在は繰越金があるので当面は問題ないとは言え、将来を考えれば大きな問題である。今後は経費の削減に努めるとともに、会員数増加と受託業務獲得について検討していく必要がある。

IGS日本支部 2008年度会計報告
 期間:2008年1月1日～2008年12月31日

平成21年2月5日

収入の部

科 目	2008年予算	2008年実績	備 考
1. 会費等収入			
①2008年度分			
法人会員	5,760,000	2,640,000	11/24社×240,000円/社
個人会員	2,312,000	824,000	103/250名×8,000円/人
学生会員	27,000	7,000	7/27名×1,000円/人
②本部還付金			
法人会員分	132,000	149,814	24社×50\$,昨年新入会1社分250\$ (103.32円/\$)
(小計)	8,231,000	3,620,814	
2. 講習会・出版等収入			
シンポジウム	600,000	540,000	参加費+懇親会収入
講習会, 見学会他	50,000	6,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	100,000	14,500	
書籍印税	0	0	
(小計)	750,000	560,500	
3. 広告等収入			
技術情報誌広告	600,000	400,000	2007年・7月号・11月号・2008年3月号
(小計)	600,000	400,000	
4. 受託収入			
受託研究費	2,000,000	0	
(小計)	2,000,000	0	
5. 受取り利息等			
受取り利息	10,000	28,609	
その他	0	0	
(小計)	10,000	28,609	
(2008年度 収入合計)	11,591,000	4,609,923	
6. 繰越し金			
一般会計繰越し金	26,160,995	26,160,995	2007年繰越し金
(小計)	26,160,995	26,160,995	
(収入・繰越し金 総合計)	37,751,995	30,770,918	

支出の部

平成21年2月5日

科 目	2008年予算	2008年実績	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出			担当:事務局
法人会員	2,750,000	2,583,000	25社×1000 \$ /社×103.32円/\$
個人会員	904,200	858,589	277名×30 \$ /名×103.32円/\$
学生会員	0	0	30名×0円/名
(小計)	3,654,200	3,441,589	
2. 講習会・出版等支出			
シンポジウム	600,000	785,003	担当:行事委員会
入門セミナー, 外国人講演会、見学会他	100,000	108,000	担当:学生教育委員会
用語集出版費	100,000	0	担当:編集委員会(繰り越し)
税金、原稿料等	200,000	0	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	1,000,000	893,003	
3. 受託業務支出			担当:ジオテキスタイル, ジオメンブレン技術委員会
報告書作成	200,000	0	
(小計)	200,000	0	
4. 技術情報発行費			担当:編集委員会, (名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	1,366,259	140万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	500,000	0	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	350,000	228,850	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	2,400,000	1,595,109	
5. 委員会経費			担当:各委員長
国際連絡委員会	2,500,000	720,565	予算:本部理事会派遣費250万・(カンクーン旅費)
コーポレート委員会	50,000	0	
編集委員会	200,000	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	100,000	84,022	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	67,240	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	50,000	0	
ジオテキスタイル技術委員会	200,000	199,167	
ジオメンブレン技術委員会	200,000	200,000	
新技術委員会	300,000	62,472	委員会費9万+データベース作成費21万
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	0	
学生教育委員会	100,000	104,100	見学会, 入門セミナー別
電子情報委員会	100,000	54,355	
財務委員会	50,000	0	
ジオシンセティックス使用量アンケート調査	50,000	0	別刷り印刷費, 通信費等
技術普及委員会	200,000	0	
災害復旧技術委員会	200,000	94,300	
(小計)	4,650,000	1,786,221	
6. 事務局経費, その他			担当:事務局
総会	100,000	43,061	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	300,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	100,000	0	埼玉大学コピー代その他
通信費	150,000	171,930	
消耗品費	200,000	47,567	
傭人費	1,000,000	750,600	事務局傭人費
幹事会	100,000	47,600	会議費, 幹事交通費, 通信費資料購入など
その他	100,000	198,590	事務局交通費, 慶弔費等, 送金費, 謝金
(小計)	2,100,000	1,559,348	
(2008年度 支出合計)	14,004,200	9,275,270	
7. 予備費・繰入れ費			
2008年から2009年への繰越金	23,747,795	21,495,648	
(支出合計)	37,751,995	30,770,918	2009年度への繰越金

IGS日本支部 2009年度会計予算

平成21年2月5日

期間:2009年1月1日~2009年12月31日

収入の部

科 目	2009年予算	備 考
1. 会費等収入		
①2008年度分		
法人会員	4,800,000	20社×240,000円/社
個人会員	1,920,000	240名×8,000円/人
学生会員	20,000	20名×1,000円/人
②本部還付金		
法人会員分	100,000	20社×50\$ (100円/\$)
(小計)	6,840,000	
2. 講習会・出版等収入		
シンポジウム	520,000	参加費+懇親会収入
講習会, 見学会他	50,000	参加費
書籍, ビデオ等販売	100,000	
書籍印税	0	
(小計)	670,000	
3. 広告等収入		
技術情報誌広告	600,000	2008年7月号・11月号、2009年3月号・7月号
(小計)	600,000	
4. 受取り利息等		
受取り利息	10,000	
その他	0	
(小計)	10,000	
(2008年度 収入合計)	8,120,000	
5. 繰越し金		
一般会計繰越し金	21,495,648	2008年から2009年への繰越し金
(小計)	21,495,648	
(収入・繰越し金 総合計)	29,615,648	

支出の部

平成21年2月5日

科 目	2009年予算	担当委員会・備考
1. 本部国際学会費支出		担当:事務局
法人会員	2,000,000	20社×1000\$/社×100円/\$
個人会員	720,000	240名×30\$/名×100円/\$
学生会員	0	20名×0円/名
(小計)	2,720,000	
2. 講習会・出版等支出		
シンポジウム	520,000	担当:行事委員会
入門セミナー, 外国人講演会、見学会他	100,000	担当:学生教育委員会
用語集出版費	100,000	担当:編集委員会(繰り越し)
税金、原稿料等	50,000	税金,原稿料,アルバイト代
(小計)	770,000	
3. 技術情報発行費		担当:編集委員会,(名簿:事務局)
技術情報誌印刷製本費	1,550,000	140万(情報誌)+15万(名簿作成費)
編集補助作業, 原稿料他	500,000	アルバイト代, 原稿料
発送, 連絡費	350,000	3月号、7月号、11月号発送費用
(小計)	2,400,000	
4. 委員会経費		担当:各委員長
国際連絡委員会	1,000,000	本部理事会派遣費
コーポレート委員会	50,000	
編集委員会	200,000	技術情報誌発行別
行事委員会	50,000	シンポジウム別
表彰委員会	150,000	委員会費5万+盾, 賞状作製費10万
技術委員会	0	
ジオテクスタイル技術委員会	200,000	
ジオメンブレン技術委員会	50,000	
新技術委員会	300,000	委員会費9万+データベース作成費21万
ジオシンセティックス試験法委員会	200,000	
学生教育委員会	100,000	見学会, 入門セミナー別
電子情報委員会	200,000	論文電子化作業費含む
財務委員会	0	
ジオシンセティックス使用量アンケート調査	0	
技術普及委員会	200,000	
災害復旧技術委員会	200,000	
(小計)	2,900,000	
5. 事務局経費,その他		担当:事務局
総会	100,000	総会+懇親会費
地盤工学会謝礼	350,000	地盤工学会謝礼(30万円)+会議室使用費・コピー代(5万円)
事務局費	200,000	埼玉大学コピー代その他(08,09年分)
通信費	150,000	
消耗品費	300,000	
備人費	1,000,000	事務局備人費
幹事会	100,000	会議費, 幹事交通費、通信費資料購入など
その他	200,000	事務局交通費, 慶弔費等、送金費、謝金
(小計)	2,400,000	
(2008年度 支出合計)	11,190,000	
6. 予備費・繰入れ費		
2009年から2010年への繰越金	18,425,648	
(支出合計)	29,615,648	

監査報告書

国際ジオシンセティックス学会日本支部の2008年一般会計について帳簿・証票・書類等を検証の結果、適正かつ正確であることをご報告申し上げます。

平成21年2月5日

会計監事 間 昭徳

署名 間 昭徳 (印)

会計監事 石川 雅洋

署名 石川 雅洋 (印)

IGS日本支部 2009年度 役員名簿

2009年1月

支部長	三木 博史	(三木地盤環境工学研究所)
副支部長	桑野 二郎	(埼玉大学)
幹事長	平井 貴雄	(三井化学産資)
副幹事長	*宮田 喜壽	(防衛大学校)
副幹事長	*横田 善弘	(前田工織)
会計・幹事	伊藤 雅夫	(前田工織)
幹事	*今泉 繁良	(宇都宮大学)
幹事	*内村 太郎	(東京大学)
幹事	大谷 順	(熊本大学)
幹事	落合 英俊	(九州大学)
幹事	*鎌尾 彰司	(日本大学)
幹事	嘉門 雅史	(高松高専)
幹事	*北本 幸義	(鹿島建設)
幹事	*清川 伸夫	(東京インキ)
幹事	熊谷 浩二	(八戸工業大)
幹事	*小島 謙一	(鉄道総合技術研究所)
幹事	*古関 潤一	(東京大学)
幹事	木幡 行宏	(室蘭工業大学)
幹事	*柴田 健一	(芦森工業)
幹事	島岡 隆行	(九州大学)
幹事	*龍岡 文夫	(東京理科大学)
幹事	#矢島 寿一	(明星大学)
幹事	*榎尾 孝之	(太陽工業)
幹事	峯岸 邦夫	(日本大学)
幹事	*毛利 栄征	(農村工学研究所)
監事	*間 昭徳	(三菱樹脂)
監事	石川 雅洋	(東洋紡績)
事務局	伊集院紀子	(IGS 日本支部事務局)
支部顧問	赤木 俊允	(東洋大学名誉教授)
支部顧問	岩崎 高明	(エス・エヌ・テーエンジニア)
支部顧問	田中 茂	(神戸大学名誉教授、(財)建設工学研究所)
支部顧問	福岡 正巳	(マネージメントシステム評価センター)
支部顧問	山内 豊聡	(九州大学名誉教授)

*再任、 #新任

国際ジオシンセティックス学会 日本支部 (JCIGS) 2009年組織図

